

NO	時期	時期区分	タイトル	場所	概要	提案者
1	1996-2001	前期	奈良万葉文化館-庭園	奈良県明日香村	万葉集に歌われる美の集大成を展示し、新しい文化交流と世界への発信を目的とした拠点づくりである。周辺の歴史景観に回答し融合する、つくり過ぎない力強い深みのある景観デザインで飛鳥川をモチーフとした「回遊庭園」に「謎石文化」をヒントに巨石で石舞台がある風景を創作した。	長谷川弘直
2	2001-2009	後期	国立国際美術館（設計期間1995年～1998年、施工1998年～2004年）	大阪市国立国際美術館	美術館機能のほとんどを地下に埋め込み、屋上部分に当たる地上部分を都市の広場として開放する。かつ、親しまれる美術館として、多くの来館者を受け入れ、貴重なコレクション、展示品を収蔵する。中之島4丁目地区の開発計画と連携し、ひとつの建築に留まらず、地域全体として、点から面的な拡がりを促す計画とする。そのために、設計では、中之島を読み解き、地域の全体計画をいくつも提案しながら、この美術館の形態、アプローチ計画を行った。	高原浩之 高原浩之
3	2001-2009	後期	八軒家浜賑わい施設 川の駅 はちけんや	大阪市八軒家浜	八軒家浜は平安時代の熊野詣での起点、江戸から明治にかけての舟運のにぎわいと永い歴史を持つ場所である。そして、平成13年、政府の都市再生プロジェクト「水都大阪の再生」に位置付けられ、多くの市民やNPO、企業、大阪府、大阪市、官民が一体となって、水都大阪の再生起爆剤となるべく進められてきたプロジェクトである。ここに、約1350㎡の施設（レストラン、観光船案内所、情報発信ゾーン）を造る計画である。八軒家の名前の由来にもなる江戸時代にあった旅籠、日本家屋の再現、ランドスケープとして緑の中に埋め込まれた形態、周囲の現代建築との対比と融合・・・多くのデザイン、形をスタディーし、議論した。	松久喜樹
4			堺市船堂公園-アースワークに包まれた公園	堺市船堂公園	農業用水として活用されてきた溜め池の活用。公園としての整備が行なわれ、公園の片方には地域の原風景になっていた溜め池の面影を残しながら、地形から雨水が自然に溜まる場所を池泉とすることで、水辺の散策と生態の観察を楽しむことができるようにした。	佐々木葉二
5	2001-2009	後期	六本木ヒルズ・ランドスケープ	東京都六本木ヒルズ	東京都心部の住商複合高層ビル開発プロジェクトの骨格空間として立体回遊型ランドスケープを組み込むことにより、地上から建築内部、屋上にいたる豊かな緑のネットワークを都心で始めて実現した。	大矢京子
6	2001-2009	後期	北大江公園リニューアルパーク/公園を拠点としたまちづくり活動		都心の官庁街・ビジネス街にある街区公園を住民・企業市民の参加を得てワークショップで公園づくりを計画。公園と住民とのかかわりを提案するとともに、公園完成後は、企業市民であり専門家として公園を拠点としたイベント開催の企画・運営に参加し、まちづくり活動につなげている	大矢京子
7	2001-2009	後期	名塩創造の森	兵庫県西宮市	都市近郊のニュータウン(A=243ha)保存緑地（保健保安林）を整備するにあたり、ニュータウンの入居者や子供たちを巻き込みながら、安全・安心な森づくりを行った。	大矢京子
8	2001-2009	後期	公共空間利用実態調査（2000～2002年）		都市づくりパブリックデザインセンターが2000年にJUDIに委託した公共空間利用実態調査の関西ブロックを担当し、御堂筋オープンテラス、鴨川納涼床、神戸ルミナリエなど10事例について調査し、2001年のJUDIシンポジウムにて公共空間の活用について討議・提言した。調査の成果は2002年に『都市の魅力と公共空間活用』としてまとめられた。	澤木昌典
9			八幡山公園彫刻シンポジウム	兵庫県美方郡村岡町	兎塚学びの里整備事業の一環として、神社や5～6世紀の古墳群が残る鎮守の森となっている八幡山において、国内外の芸術家とともに住民の参加を得ながら国際彫刻シンポジウムを開催し公園づくりを行い、歴史・文化の発信の場を創出した。現在も毎年様々なアーティストを招き「八幡山芸術祭」として音楽イベントが開催されている。	大矢京子
10	2001-2009	後期	地域ぐるみの「ため池」再生に向けて-加古川寺田池	加古川市寺田池	堤体の老朽化による改修に併せて、ため池の利活用を進めることになった、加古川市の寺田池では、地域ぐるみで進めるため池の整備・保全の考え方に基づいて、協議会運営をサポートするとともに、地域ぐるみによる取り組みの機運を高めるための、イベントの開催や情報の発信、ワークショップの開催による整備案の策定等を行った。	森川稔
11	1991-2000	前期	ル・アール港日本庭園建設の技術協力に関する調査		大阪港とル・アール港との交流のシンボルである日本庭園のデザインならびに施工管理を行い、日仏の文化交流に寄与したこと	宮前保子
12	2003-2005	後期	道頓堀水辺プロムナードの空間と橋のデザイン検討及び監修(タイトルは提案分のみ)	大阪市道頓堀	大阪ミナミ道頓堀を東西に連続する東の日本橋から西の四ツ橋間を、水辺を歩いて楽しむ「とんぼりリバーウォーク」をコンセプトに空間構造から施設・照明・サイン・みどりの景観と橋のデザイン検討と監修	長谷川弘直 (関係者多数)
13	2001-2009	後期	瀬田川の水辺景観整備	滋賀県瀬田川	瀬田川近辺の住民代表と、琵琶湖河川事務所が意見交換する「瀬田川水辺協議会」を設立し、水辺の散策路や植生計画を作成し、琵琶湖河川事務所が実施してきた。瀬田川水辺協議会会長として協議会の運営にあたり、課題の提案、意見の調整を行ってきた。	山崎正史
14	2001-2009	後期	さいたま新都心けやきひろば	さいたま市	新都心の中核機能の空間として位置づけられた「けやきひろば」。220本のケヤキを植えた緑豊かな大地を、地上から7m持ち上げ、新都心全体の歩行者ネットワークと連結した。	佐々木葉二
15	2001-2009		鴨川納涼床審査基準・ガイドライン策定 <進化し続ける鴨川納涼床>	京都市鴨川	新たな「鴨川納涼床審査基準」は、旧来の基準「許可標準」に対して、納涼床の伝統を保全することを基本とした形態等の制限を踏襲しながら、利用の実態にも応じた「審査基準」となっています。この「審査基準」に新たに加えられた主な項目として、納涼床の「柱」や「手すり」の色彩を「木材色」にすること等があげられます。また、隣り合う納涼床の間に設けられる「すだれ掛け」についても、利用客同士の視線やプライバシーに配慮するために「すだれ掛け」の高さ制限を引き上げています	水谷省三
16	2005.4-2007.8	後期	VRを活用した4町パティオのデザイン検討が自主的な街づくりの輪を広げる <VRとブログを用いて継続的に昼夜間シミュレーション>	香川県高松市	商店街の中心部でデッドスペース化していた広場を、地域や買い物客に親しまれる空間へと再生させたい「デザインを専門業者の案に任せるのではなく、自分たちの広場は自分たちでつくりたい」4町パティオデザインプロジェクト参加者たちの強い思いは、VRプレゼンテーションを活用した広場のデザイン検討を通じて形になった。	福田知弘
17	2008		阪急西宮ガーデンズ	西宮市北口	阪急西宮球場跡地に立地する、大規模複合商業施設の屋上に、来訪者だけでなく地域住民の憩いの場ともなる「都市の庭」を創出	堤 肇
18	2001-2009	後期	東横堀川：川を活かしたまちづくり	大阪市東横堀川	高速道路に覆われた東横堀川をフィールドに、ビジョンの検討から地元組織の立ち上げ、コミュニティツーリズムをテーマとした地域振興方策の検討と地元協議会の部会運営など、構想の検討から地元の機運づくり、仕組みづくりまで行った。担当レベルでは、受注業務外で、空間づくりの専門家や連携可能なNPOの紹介など積極的なマネジメント支援を行っている。	吉野国夫
19	1994-1997	前期	瀬野川ニュータウンみどり坂-空中庭園都市	広島市瀬野川	広島市の北東部を流れる瀬野川の北部、標高210数メートルの山丘に市のベトナムとして計画された。高度な土木技術を駆使して機能的で効率性・安全性を重視した土地利用計画で宅地造成された。これを受けて私達はこの場所の持つ高原台地と起伏に富んだ地形と周辺の深い緑を取り込んだ自然形を基本に、シンプルでモダンアートな空間情景が展開するランドスケープの街をデザインした。	長谷川弘直
20	1996～1997	前期	東海道関宿「百六里庭」（ひゃくろくりてい）	関町（現在は合併して亀山市）	公募型デザインワークショップによる公共施設の設計事例で、地元小中学校の生徒も参加して設計。関宿重伝建地区内に立地して歴史景観と調和するデザイン、防災公園としてのデザイン、当時としては早い時期での車イス対応のバリアフリーデザイン、生徒のまちづくり学習の場づくり、等のコンセプトでまとめたことが評価され、1998年に三重県さわかままちづくり賞（景観部門）を受賞した。	浅野 聡（三）
21	1991-2000	前期	①田原台の近隣公園と歩行者専用道路（計画・設計）	田原台	公園緑地計画の基本となるまちのイメージづくりコンセプトの立案し、各オープンスペースの位置づけとデザイン方針を提案した。実施設計として夷公園（2.0ha）と歩行者専用道路（1200m）を担当した。「何もなかったところ」に作られるニュータウンで、デザインが（自然資源を活用しつつ）都市の個性（文化）を創造するのだという意気込みがあった	中村伸之

1  
2  
3  
18  
19  
23  
6  
15

22	2001-2009	後期	東豊中第一団地(建替え)緑地および園地施設等に係る調査設計	豊中市	建替え団地のオープンスペースのありかたについて住民と共に、関西圏で最初のワークショップなどを開催しながら検討したもの	宮前保子
23	1991-2000	前期	出雲の農面道路に架かる橋 南神立橋	出雲	具体的な形をデザインする要望が高まった時代のデザイン。景観委員会が設置され地元の陶芸家などが参加した委員会で採択された。雲と竜をあしらうように委員会からの要望を取り入れたメーカーとしてのデザイン。	横山あおい
24	1991-2000	前期	中百舌鳥公園団地・団地環境整備事業	堺市中百舌鳥公園団地	供給開始後20年以上たった団地の屋外環境のリニューアル(計画・設計)エイジングの効いた既設のレンガ舗装を広げつつ、「やり過ぎた」施設を取り払った。成長した樹木、景観になじんだレンガ舗装、増えすぎたモノをなくしてゆきシンプルな空間にして、団地の個性を引き出す「引き算のデザイン」だったと思う。時代を感じさせる巨大なモニュメントは、鉄板の剥落の恐れがあり、補	中村伸之
25	1994-1996	前期	浜寺公園交通遊園再整備計画	堺市	開設後 30年経過した交通遊園施設の老朽化への対応と将来を見通した施設の再整備。公園全体計画(約75ha)と交通遊園との整合性や、他施設の連携利用による魅力づけの検討。子供汽車、ゴーカートコースの拡充が目玉。魅力を高め、交通遊園の利用者を拡大すること。施設運営による収入を増やすことができた(当時)	河本一行
26	2001-2009	後期	なんばパークス	大阪市難波	駅に向かって緩やかに傾斜したステップ状の緑の丘は、難波のシンボルとして広く認知され、今では難波のまちのアイデンティティを形づくる欠かせない要素となっている。そして緑が生い茂る屋上庭園は、誰もが自由に散策でき、安心してゆったりと過ごせる半公共的なスペースとして、周辺住民をはじめオフィス就業者や来街者にとっての憩いの場、交流の場として、また時には文化を育む場として多くの人がとに親しまれている	門重学
27	1996-2001	前期	湊町リバープレイス	大阪市	ミナミを代表する歓楽街を東は長堀通りの日本橋から西へ御堂筋・四ツ橋通りと続く交点に宇宙船を思わせる建築と立体広場と高速道路を内含した再開発事業である。隣接してポートウォークや船着場・パフォーマンス広場のある水辺の広場と連続してミナミの新名所となっている	長谷川弘直
28	1991-2000	前期	OCAIの公共空間のデザイン(OCAIビル、OCAIウォーク)	大阪市O C A I	デザインの監修	鳴海邦碩
29	1998-2002	前期	靱公園(東園)リニューアルパーク/まちとつなぐ	大阪市浪速区(西区の間違いい?)	2006年世界バラ会議大阪大会”の会場の一つとして、バラ園を中心に公園(東園)のリニューアルを行う事業であった。主にバラの植栽計画を担当しながら、公園周辺のまちと公園をつなぐをキーワードに計画を行った	大矢京子
30	2001-2009	後期	国色天郷風情園天府花城基本計画及び基本設計、日本館等建築実施	海外交流	2005年9月に開催された第6回中国花卉博覧会のサブ会場の計画及び設計。63haである。また花博会場基本計画・基本設計に引き続き拠点テーマ施設ゾーン日本館とスペイン館の建築設計及び江安河沿川景観設計を行った。	田村博美